

大野城市共働事業提案制度 事業評価及び意見集約表

事業名：子どもたちの夢と希望を醸成する子どもの居場所づくり事業

実行委員会名：子どもの居場所づくり事業実行委員会(特定非営利活動法人チャイルドケアセンター、子ども・若者政策課)

評価項目		評価点	評価	推進委員意見
共働の必要性	市民への効果	17.20 / 25点	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットへの効果はあるが市民全体への効果はまだみだである。 ・こども食堂マップやマニュアルの作成など、市民への情報が充実し必要な人への支援が届きやすくなっている。 ・事業認知度の点で広く市民の目に届く工夫が必要 ・マップ等での周知がなされているが、真に必要な家庭へ届いているか疑問。情報を持っている行政側の課題と思われる。 ・貧困対策として限定的な参加者に限られていると思われるが、対象に対しても満足度が低い。公民館を中心に実績はあるが、周知が必要な人に届いているか不明。 ・子どもの居場所づくりの観点からは一定の効果がみられるが、貧困対策の側面では間接的で効果として見えづらく、継続的な内部評価を行ってほしい。
	共働の相乗効果	18.30 / 25点	B	<ul style="list-style-type: none"> ・相乗効果はあるが、十分とは言えない。 ・ネットワーク会議では関係各所との意見交換や協力体制を気付くことが出来ている。 ・成果や効果を分かりやすく示す工夫が必要 ・行政との連携はある程度できている。 ・ネットワークをつくり、参画団体が増え、市全域で支援の輪が広がったことは大変大きい効果となったと思う。点から面へとより強化されたように思う。こども食堂の運営は強化されたように思う。 ・市の役割が見えにくく、重層的支援会議につながった事例もないことで、共働の効果は図りづらい。 ・現場での気づきやアプローチに関する研修などを予定してあるため、今後に期待したい。
	共働事業の実施過程	20.10 / 25点	A	<ul style="list-style-type: none"> ・過程の報告が充実しており、連絡調整も密に行われている。 ・ネットワーク会議での意見交換を通じて、現場での困りごとが市と共有できている。 ・役割分担としては妥当と思われる。しかし、行政側での支援が必要な家庭への周知が不十分か？ ・マップやマニュアル、ノウハウなど、共働で取り組んだことで結果的に生まれたものは良かったと思うが、行政課題としての取り組みが薄いように思う。導入は良かったと思うが、今後の継続が見えない。 ・現場における支援など、共働の姿勢は感じられる。その反面、それぞれの強みを活かした活動の役割分担は十分とは感じられないため、より良い活動となるための改善の余地を感じる。
事業の実現性	目的・目標の達成度	17.20 / 25点	C	<ul style="list-style-type: none"> ・一部目標未達成がある。 ・「子どもの居場所づくり」や「地域みんなで子どもを守り、育てる社会をつくる」という目的に沿ってマップ、マニュアルの作成や、ネットワーク会議など基盤づくりは進んでいる。 ・課題テーマ「子どもの貧困問題」がどう改善したかの成果指標やデータが示されておらず効果が見えづらい。(例えば、支援対象世帯のグラフなど) ・こども食堂としてはほぼ目標を達成しているが、本来の貧困の解消につながっているのか不明。 ・団体の食堂による貧困の解決と行政の居場所としての構築があっているのか。課題の安定運営について目標と20%以上の差が出ているが、それに対する原因の分析や解決策が正しいか疑問点がある。金銭的支援ではないもので解決に結びつくのか不明。 ・こども食堂ネットワーク、コーディネーターの設置、マニュアルの作成などの仕組みづくりの部分は高く評価できると思う。今後はこの仕組みをうまく活用して、居場所づくりの先にある貧困対策や個別のサポートにつながるような取組に期待する。
	※事業の発展性 (波及効果)	1.60 / 10点	/	<ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命取り組んでいるが、この辺りが限界かも。 ・R8より子どもの居場所、ネットワークとして役割を広げようとしており、発展的な展開を期待したい。 ・貧困解消としては、現在のやり方では難しい。
	※事業の再現性 (スキームの確立)	2.00 / 10点		<ul style="list-style-type: none"> ・スキームが出来つつある部分もある。 ・ネットワークづくりやコーディネーター設置など基盤づくりは進んでいる。 ・子どもの居場所づくりとしては継続性あり。
総括		76.4 / 120点	B	